

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 東住吉区
学校名 大阪市立桑津小学校
学校長名 竹村 博次

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・桑津小学校では、第6学年 121名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語は全国を1.8ポイント下回り、大阪市と同じであった。算数は全国・大阪市を2ポイント上回った。理科は全国を1.1ポイント下回り、大阪市を1ポイント上回った。平均無答率は、国語と算数は全国・大阪市を下回り、理科は全国を上回り、大阪市と同じであった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 「言語の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」の領域で全国・大阪市の平均正答率を上回った。が「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域で全国・大阪市を下回った。昨年度と同様、「学力向上支援チーム事業」を積極的に活用し、教員の指導力を高めるとともに、児童が、友だちの話を聞いたり自分の意見を伝えたりする学習活動をさらに取り入れていく。

〔算数〕 「測定」領域で全国・大阪市を下回ったほかは全国・大阪市の平均正答率を上回った

〔理科〕 「粒子を柱とする領域」「生命」を柱とする領域で全国・大阪市を上回った。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に肯定的に答えた児童が93.6%と昨年度(100%)「学校に行くのが楽しい」との質問において昨年度より0.2ポイント下回り課題が残った。

今後の取組(アクションプラン)

- 朝の学習などに計画的・継続的に取り組み、主体的な学習態度を育成することを通して学習の基礎・基本の定着を図る。
- これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、さらなる教育の質の向上をめざす。
- 引き続き「よいところをしっかりとほめる」指導を組織的・継続的に行い、より規範意識が高く自己肯定感をもつことのできる児童を育成する。